

時変多変量自己回帰モデルを用いた 日本の輸出量の計量分析*

中島 上智[†] 渡部 敏明[‡]

概要

日本の貿易収支は、日本経済の変動だけでなく、為替レートや海外経済の変動に大きく影響を受ける。またその影響度合いは、時期によって変化している可能性がある。本稿では、時変多変量自己回帰 (Time-varying parameter VAR) モデルを用いて、日本の実質輸出の変動について構造変化を考慮した定量的な分析を行う。実証分析の結果、為替レートや海外経済が日本の実質輸出に与える影響度は時期によって相応に異なり、2013年からの今次景気回復局面では、日本の実質輸出に対して為替レートの影響度が低下する一方、海外経済の影響度が高まっていることが示唆される。

キーワード：為替レート, 構造変化, 時変多変量自己回帰モデル, 輸出量

JEL 分類番号: C32, F14, F41

* 本稿の内容と意見は筆者ら個人に属し、国際決済銀行の公式見解を示すものではない。

[†] 国際決済銀行 (E-mail: jouchi.nakajima@bis.org)

[‡] 一橋大学経済研究所 (E-mail: watanabe@ier.hit-u.ac.jp)